

＜先週の説教から＞

『ルカ㉑一郷里の人たちとイエス様』
イザヤ 8:23~9:5 ルカ福音書 4:12~21
武田真治牧師

今日の箇所は、イエス様がいはゆる伝道を開始された時の様子を報告してくれています。即ち「イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤ（＝郷里）に帰られると、その評判が周りの地方一帯に広まった」（14節）です。ここでの“評判”とはどのようなものであったのでしょうか？簡単に考えると、次に出て来る15節の「諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた」から、み言葉を語られていたから周囲に評判がひろまったと早とちりしてしましますが、ここはむしろ“評判”が広まっていたけれどもイエス様は“諸会堂で説教をする”という伝道方法を用いられたと読むのが正しいと考えられます（原文では、カイアウトス＝「そして（しかし）彼は」とわざわざ主語が強調されています）。ということは、伝道を為し始める前に、イエス様が「ガリラヤに帰られた」だけで“評判”が立ったということになります。どうしてなのでしょう？

その答えは14節の最初にある「“霊”の力に満ちて」おられたからということになります。ヨルダン川で洗礼を受けられ、荒野での悪魔からの誘惑を退けられた結果、豊かに聖霊に満ちておられたから、周りの人々が、特別な人と思えたのです。三十年程、故郷ナザレでお過ごしになられ、私たちと同じように社会生活を暮らされ、一人の当たり前の人間として様々な経験なされた後、今、いはゆる伝道生活へと歩み出された時、その御姿は特別な“霊”の力に満ちておられたと。故に、出会う人たちが『この人はすごい』『特別な方にちがいない』と感じてしまう方だったのでした。だから、この後、弟子たちもひと言、声を掛けられただけで、今までの生き方を止めて、この方に従おうと決心できたのであり、“霊”の力に満ちておられたからこそ、この後、み言葉の説教や病気の癒やしや不思議な奇跡が起こせたのでしょう。

戦後まもなく、イエス様のことを単なる普通の男で、しか

も何も出来なかった人物として描くことが流行したことがありました。それはそれなりの時代の要請や必要があったと思います。ただ、今日の箇所にもあるように「主の霊がわたしの心におられる。貧しい人に福音を告げ知らせ、捕らわれている人に開放を告げ知らせるために」とイエス様ご自身が語っておられるように、“霊の力”の存在を抜きには考えられないのではないのでしょうか。そのお方が、あの惨めな十字架に架かってくださったという点にこそ、主のみ業の不思議さと恵みの深さを当時の人々は感じたのだと言えます。だからこそ、そのお方の復活も本当だと信じられたのだと！

イエス様は、この霊の力を少しでも私たちに注ごうとしてくださっています。「求めなさい。そうすれば与えられる」と！それを代表するのが“洗礼”であると言えます。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 12月11日(水) 20:00
II. 12月12日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙
祈祷主題: 会堂掃除奉仕を覚えて
担当者: (水) 奈良 (木) 岡野
祈りに覚える人: 小林さん 小林さん

【教勢報告】

主日礼拝 男20 女56 計76
祈祷会 I. 男3 女2 計5 II. 男2 女11 計13
日曜学校 幼稚科2 小中科11 計13

【次週礼拝】*待降節第三主日 12月15日(日)

聖書: イザヤ書 9:1~6
ルカによる福音書 4:31~37

説教: 「ルカ㉑一人々はみな驚いた！」
武田真治牧師

讃美歌: 242(1~3)、244(1)、32、聖歌隊245、
178、471、90(1)

【次週当番表】

司式: 茨木長老 奏楽: 村上 礼拝: 金刺長老
献金: 松下 松田 受付: 飯島 吉岡
会堂準備: 木村 小杉 富澤 長田
橋本 北條

看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: 羽倉

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・聖歌隊練習
・日曜学校教師会・幼稚園理事会
・オリブの葉編集委員会

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

2024年 12月 8日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>